

令和7年度 館林市立第二小学校 学校経営について

1 【学校教育目標】

かしこく（知育） たくましく（体育） 心ゆたかな子（徳育）

(1) 目指す学校像

- 学校教育目標の実現を目指し、全教職員が教育活動に創意と情熱を傾け、人とのつながりを大切にしながら、生きる力の基礎を育む活力のある学校を目指します。
- 地域とともにある学校として、学校・家庭・地域との協働で学校課題に取り組み、将来につながる豊かな体験を取り入れた教育活動を行う学校を目指します。

(2) 目指す児童像

☆は道徳教育重点内容項目に関連

★は校内研修に関連

かしこい子（知育）

基礎基本を身に付け、考え表現する子

① 自分で考え追究する子

② 考えや思いを表現できる子（★）

たくましい子（体育）

自分で決めて、粘り強く努力する子

③ 目標を持って粘り強く努力する子

④ 自分で考えて行動する子

「自分から進んでチャレンジする子」

心ゆたかな子（徳育）

自他を認め、大切にする子

⑤ 思いやりの心を持ち自他を大切にする子（☆）

⑥ 笑顔で誰とでもあいさつする子（☆）

二小の合い言葉『あ・つ・じ』を年間通して実践していく

☆笑顔で②あいさつ（心豊かに） ☆思いや考えを③たえる（かしこく）

☆④自分から行動する、頑張る、チャレンジする（たくましく）

(3) 目指す教師像

相手意識を持ち、子どもの成長のために、協働的に働く教師

2 【学校経営方針】

- 1 働きがいのある職場づくりで信頼に応える職員
- 2 豊かな心を育む教育の推進と温かい人間関係づくり
- 3 確かな学力を育む教育の推進
- 4 個性を伸ばす教育の充実
- 5 体力・運動能力の向上及び学校健康・安全の充実
- 6 魅力ある学校づくりの推進

1 働きがいのある職場づくりで信頼に応える職員

- 業務を見直し、効率的で、実りある仕事を行う。
- 「規律確保行動計画」の取組に対して、全教職員で点検・評価し、課題を自分事化し具体的に話し合い、非違行為の根絶をはじめとする服務規律確保に向けての意識の高揚を図る。
- 人には笑顔で接する
 - ・保護者への丁寧な対応、来客者への迅速な対応、電話のマナー（すぐ出る/名乗る）
 - ・人権意識に心がけ、子ども達に丁寧な言葉がけ（さん付け）をする。
- 整理整頓、清潔で心安らぐ環境の整備を充実させる。
 - ・児童が帰った後の教室整備、掲示物の工夫、花を飾る心の余裕
- 教職員のよさや強みを生かした創意工夫による教育活動
 - ・自己理解、メタ認知。自分の強みを生かし、よさを伸ばす。困難時は人の手を借りることも惜しまず。「協働」「同僚性」

2 豊かな心を育む教育の推進と温かい人間関係づくり(人とのつながり↑関わり↑直接話す)

- 道徳教育の重点：「礼儀」「相互理解、寛容」
- キャリア教育の充実（自己有用感・自己肯定感を持たせる取り組みを）
 - ・「目標を持って、粘り強く努力する子」の育成
 - ・特別活動の充実（学級活動、委員会活動、体育的活動と連携した縦割り活動）学年・学級を越え児童が工夫し実践する場、褒め合い認め合える場を設定
→ 高学年をリーダーとした縦割り活動で児童が工夫し実践できる場面をつくる。
学習活動を通して、人とのつながり・関わりを大切にし、主体性や非認知能力を高める、伸ばす
- 心の教育
 - ・思いやりの心をもって、自他を認め大切に→受け入れ、認め合い、支え合う
 - ・命を守る教育を行う。→不安感の解消
 - ・笑顔で誰とでもあいさつできる、直接話す→関わり合うことでいじめ防止につなげる
- 児童支援会議の充実
 - ・生徒指導、教育相談、特別支援（教育支援）等、児童をめぐる諸課題の未然防止、早期発見、早期解決を図る。

3 確かな学力を育む指導の推進

- 伝える力の向上（校内研修）
 - ・よりよい考えや思いを表現できる児童の育成～互いに認め合い、伝え合うことを通して～
 - ① 考えを深める話し合いをするために目的や観点を明確にする
 - ② 人の考えや思いのよさを取り入れる場の設定の工夫
 - ・授業力の向上→教師が「～させる授業」→児童が「～する授業」、一時間の授業の流れが分かる板書の工夫、一人一授業の相互参観、模擬授業、授業改善PJ動画、研修等の共有
 - ・試行錯誤し対話・交流し自己決定する活動場面の意図的位置付け
- ☆前年度のC R T等の結果や実態を踏まえ、「何ができていて何ができていないか」を把握しながら、授業の質を高めた授業改善を行う。その後の評価でできない部分を把握したら補充指導や朝学習、授業での確認で定着を図る。
- 個別最適な学びにつなげる工夫を行う。

- ・ICTリテラシーの向上、一人一人に寄り添う支援としてのICTの有効活用
- ICTを使う場面や目的を明確にし、職員同士で活動内容を精選する
(ICTを有効活用しながら、児童が思いや考えを表現できるようにする)

○主体性を育む取り組みと学力の定着(学力向上)

- ・朝学習、補充の時間による学力の定着の工夫
- ・効果的な宿題の出し方と自主学習の工夫～家庭学習の手引きの活用・周知～
- 学習の見通し、めあてと振り返りの徹底、何が分かって学習したことが次のどんなことに生かせそうか？

4 個性を伸ばす教育の充実

- 一人一人のよさ、がんばり(意欲や過程)を認め、可能性を伸ばす指導を行う。
積極的な声かけで褒める、認める
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成
 - ・困難を抱える児童をしっかり把握し、合理的配慮を行う。
- ユニバーサルデザインを意識した授業
 - ・誰にとっても便利な支援。居心地がよく自己有用感を得られる学級作り。
 - ・誰にとっても分かりやすい授業。
- 個別最適な学び
 - ・個々の状況を把握し、ICTを活用するなどの工夫を行う。

5 体力・運動能力の向上及び学校健康・安全の充実

- 自己目標に向かって取り組むことができる積極的な意欲付け(目的意識を高める)
 - 以前の自分の取組や記録、カード等から次の目標へステップアップするために
 - ・「できるようになった」「楽しい」と実感できる授業の展開
 - ・適切な準備運動、二小ドリル、サーキット等の実施
- 計画的、継続的に運動できるようにし意欲・体力向上につなげる
 - ・マラソントイム、縄跳び集会など(縦割り活動とも連携)
 - ・体力向上につながる体育授業の充実と体力テストの春秋実施／結果の活用

6 魅力ある学校づくりの推進

- 児童にとってよりよい教育活動となるよう、目的意識を持って工夫改善し、取り組む。
(本質は何か、目的は何かを考え、今後も持続可能な活動へと改善していく)
- 地域と共につくる特色ある学校づくり:ボランティア協力による学習支援や体験活動、環境美化、教職員の負担軽減につながる取組
- 安全安心な学校づくり:地域ボランティア協力による登下校時の安全支援で犯罪・事故未然防止
 - ・教育課程の工夫～里沼学習、地域学習、防災学習など、地域の教育力を生かした教育活動を学校運営協議会や地域学校協働活動と連携しながら行い、郷土愛や愛校心を育ていく。
 - ・子どもたちのよりよい成長のために「地域学校協働本部」とつながり、地域資源や人材活用、連携の方法を探る。
 - ①「里沼学習・地域学習等」→新たな地域のよさを知る、気付く(郷土愛・愛校心へ)
 - ②「防災教育」→自助・共助の力や意識を高める(たくましさ↑生きる力↑)